

Hadron superstring theory (2)

The Elementary Particle Pulsation Principle Leads a Hadron Super String Theory.

A figure of wave pattern of The Elementary Particle Pulsation Principle.

Three dimensions of lines expressing a wave pattern belong to a part (four-dimensional space) above the horizon of the space.

However, the line itself of the wave pattern expresses mass zero.

The energy that a wave pattern surrounds is equivalent to a quark.

I have mass in $mc^2 > 0$.

However, the flight of the wave pattern is mass zero.

This is equivalent with the image of "the string" of the super string theory.

The current super string theory is Planck size.

The pulsation principle proposes the superstring theory of the hadron of the elementary particle size.

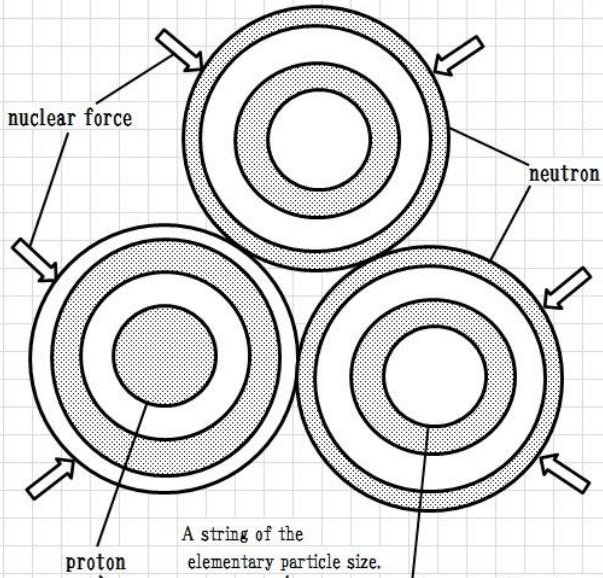
The string of the current superstring theory cannot use the equation of the standard model of the elementary particle because I have size.

Because it is Planck level, the inspection by the experiment is impossible.

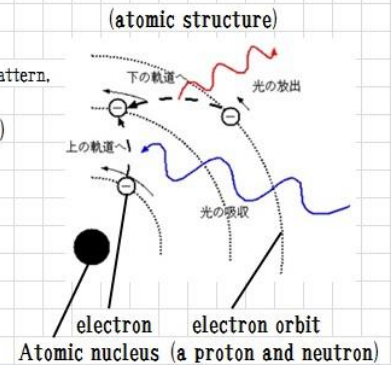
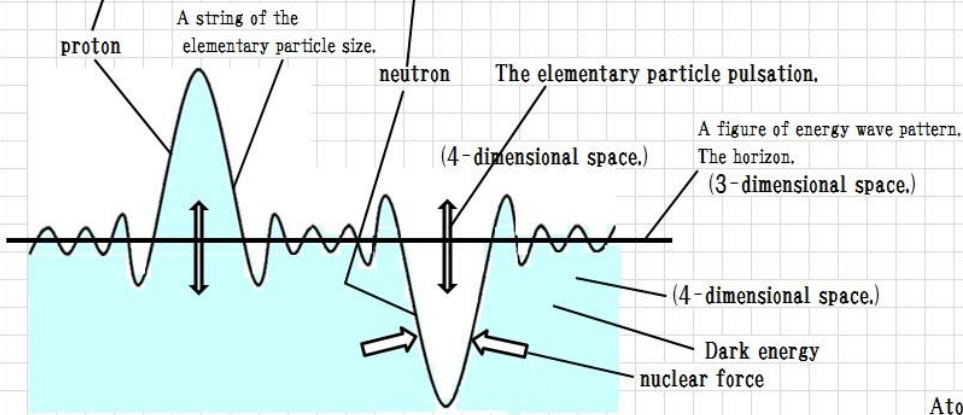
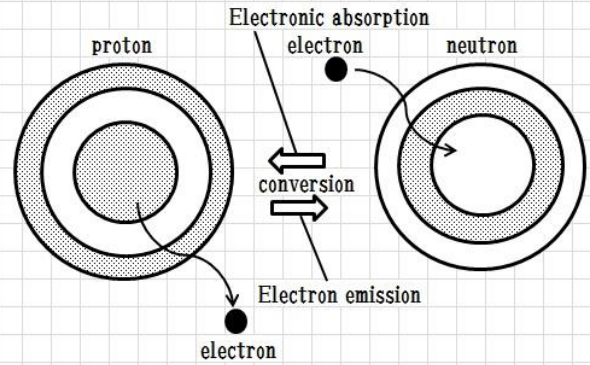
The pulsation principle becomes the point with size by the wave trip, and the equation of the standard model is usable.

The inspection by the experiments such as double slit experiments is possible.

**A figure of atomic nucleus structure and the nuclear force
by the elementary particle pulsation principle.**



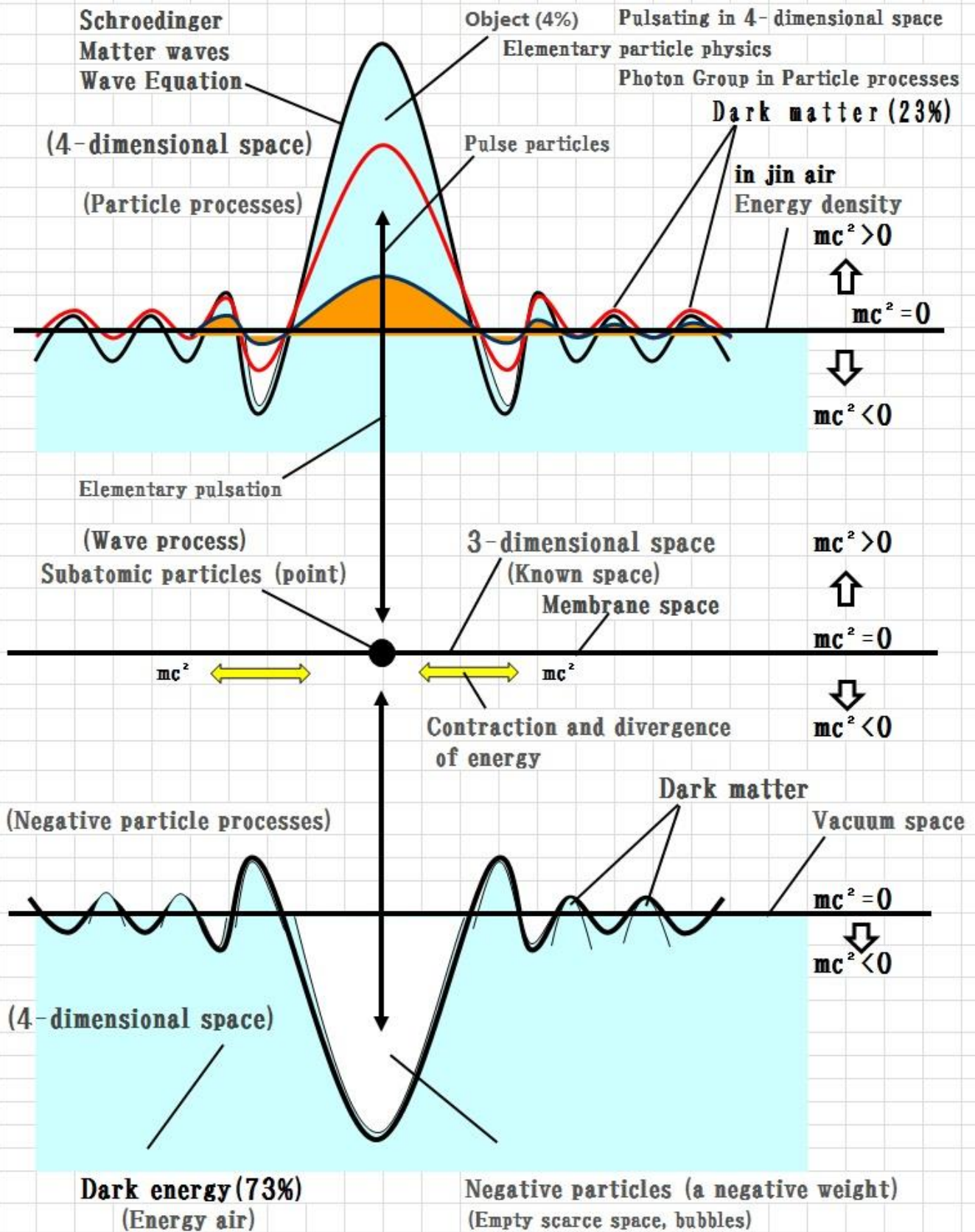
The proton releases an electron and turns into a neutron.
The neutron absorbs an electron and turns into a proton.
Both are the same elementary particles varying in a pulsatile timing.



4-dimensional space

Be cut in 4-dimensional space sees our 3-dimensional space.

Outer space is bathed in light (a pulsating Photon Group), which form a 4-dimensional space.

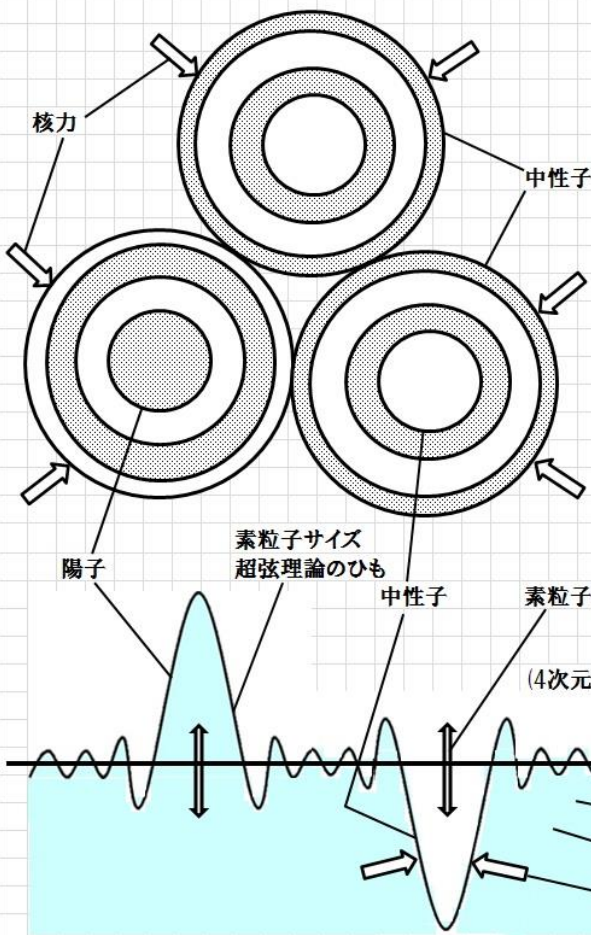


素粒子脈動原理によるハドロン・超弦理論 (2)

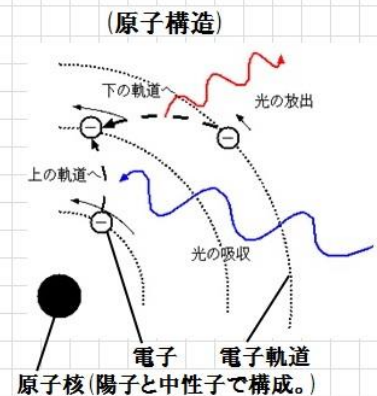
脈動原理エネルギー波形図において、波形を表す線は 3 次元空間の水平線より上の部分 (4 次元空間) に属している。しかるに、波形の線そのものは質量ゼロを表している。波形が囲むエネルギーはクォークに相当し、 $mc^2 > 0$ と質量を持つが、波形の線は質量ゼロである。このことは、超弦理論の「ひも」のイメージと等価である。

現在の超ひもはプランク・サイズであるが、脈動原理は素粒子サイズの、ハドロンの超ひも理論を提唱している。現在の超ひも理論のひもは大きさを持つが故に、素粒子の標準模型の方程式が使えず、プランク・レベル故に実験による検証も不可能である。脈動原理は波行程では大きさを持つ点となり、標準模型の方程式が使え、二重スリット実験等の実験による検証が可能である。

素粒子脈動原理による原子核構造と核力の図説。



- * 脈動する陽子と中性子が核力によって結合している。
- * 核力は陽子や中性子の波紋の谷と山、谷と谷が接触した際の暗黒エネルギーからの圧縮力であると理解できる。
- * 重力も光子と光子とが接触した際の暗黒エネルギーからの圧縮力であり、核力と重力とは類似の作用力である。
- * 核力は核子と核子との接触による近接作用であり、核内の作用。
- * 原子核の殻模型と液滴模型とに対応している。
- * 陽子と中性子は脈動のタイミングが違うだけで同じ素粒子に見える。
- * 電子を放出、吸収して陽子と中性子は相互変換する。
- * 両者は電子の静止質量分に相当する質量の差がある。
- * 陽子も中性子も偶数個だとボソンとして振る舞い、奇数個だとフェルミオンとして振る舞う。超弦理論のレベルではない、素粒子サイズにて超対称性が現れることにも対応する。
- * 陽子や中性子を脈動原理によるクォーク理論や素粒子サイズの超弦理論としても理解可能。
- * 陽子や中性子は4次元空間で脈動し、波行程では質量ゼロになる。
- * 核子の脈動による波紋の谷が電子軌道であり、電子はその軌道を周回している。陽子や中性子、電子等は実在する粒子である。
- * 素粒子脈動原理は、核力・重力・電磁気力を統一的に記述する。



素粒子脈動原理が導く、超ひも・クォーク理論。(イメージ図)

(素粒子サイズのみも理論。)

- * 初期ひも理論の欠点。質量ゼロのハドロンやクォークの接近等の矛盾を解消する。
- * クォークAとクォークBは同じものが振動している。両者は別々の存在ではない。
- * クォークを保持して振動させている弾性体は暗黒エネルギーの波、物質波である。
- * 4次元空間で振動している一つのクォークが粒子行程、波行程、負粒子行程にて姿を変えて、クォークA、クォークB、クォークC(3次元空間)に変わる。
- * 波行程(3次元空間、膜宇宙)にて、ハドロンの質量はゼロ。全質量が光になっている。

